


番号	7	対象地名	永明寺 <small>ようめいじ</small>
所在地	富士市原田 1167		
種別	寺社		
湧水分類	永明寺湧水群		
水質	水温 12.6℃ 電気伝導度 9.40mS/m (湧水マップ調査)		
概要	<ul style="list-style-type: none"> 永明寺は、豊富な湧水に恵まれた「水の寺」で知られている。 永明寺の本堂裏には東海地方屈指の名園と言われる「富士乱水の庭」がある。高低差のある裏山の地形と湧水を用いた池泉回遊式<small>ちせんかいゆうしき</small>の庭園で、ツツジやサツキを大胆に植栽し立体感ある美しい庭園となっている。 南側の山門には湧水を活用した噴水石が置かれている。 庭園北の裏山では、石像七福神めぐりを楽しむことができる。 		
周辺状況	<ul style="list-style-type: none"> 永明寺周辺は湧水地が集積しており、西に滝川、鑑ヶ渕親水公園、北東に滝不動とかがみ石公園があり、豊富な湧水が見られる。 滝川沿いに製紙工場が立地しているが、その他は概ね低層住宅地が広がっている。また、東に吉原第三中学校、南西に原田小学校がある。 永明寺南側の駐車場は、東側に枝垂桜の並木があり、南側からは、富士山を背景にお堂の屋根ラインが富士山の稜線に平行する特徴的な景観を見ることができる。 南東にまちの駅「コーヒーハウスロッキー」があり、住民や来訪者に利用されている。 		
歴史	<ul style="list-style-type: none"> 永明寺は、天平勝宝8年(756)行基上人が開創した。永正2年(1504)今川氏の重臣・斎藤加賀守が高台下の水辺に移して七堂伽藍<small>しちどうがらん</small>を建立した。 当山の五世水庵盛順<small>ごせいすいあんせいじゆん</small>(1583没)は、豊富な湧水を活用しようと水車を設置し、周辺地域の人々にも水車の活用を勧めるなど、永明寺は昔から水と深くかかわってきた。 		
その他	<p>■逸話</p> <p>【逸話】</p> <p>【水辺の動植物】</p> <p>【死骸が消える永明寺の山門】</p> <p>永明寺の正門は、薬医門といわれる立派な門です。むかし、お葬式の行列が正面から入って、この正門を潜ろうとすると急に悪寒が軽くなりました。かついでいた人々が、悪寒を下してふたをあけてびっくり。どこへいったのか死骸が見えません。死骸が無ければ葬式はできないと、人々が家まで引き返そうとして、門前の道まで来ると、また悪寒が重くなったのです。開けてみると死骸が元にもどっています。和尚さんも不思議なこともあるものだと思います、お経を読みながら門を入りました。今度は死骸は消えませんでした。こんなことがその後、幾度も続きましたが、どういう訳なのかさっぱり和尚さんにもわかりませんでした。それから後、お葬式の行列は正門を通らなくなりました。</p>		

■水辺の動植物

- ・わさび田
- ・ヤマメ、ニジマス、コイ
- ・ゲンジボタル



永明寺（湧水源）



山門の噴水石（登竜漠）



庭園（富士乱水の庭）



七福神巡りの散策路